



編集発行 第18号
群馬県立桐生工業高等学校
桐生市西久方町1-1-41
TEL (0277) 22-7141
FAX (0277) 46-4703
同窓会事務局 編集部
印刷 株式会社大間々印刷

会長挨拶

会報「桐蓄」
全会員に配布

会長 八木橋祥价



本年も世界中でさまざまな大事件が多発して居ります。

国外では、テロや地域紛争、自然災害等で多数の尊い人命が失われ、誠に悲惨極まりない現状であります。

国内でも、政治的・経済的に難問が山積しており、社会的にも子供を巻き込んだ悲惨な事件や凶悪犯罪が多発し、又、台風による深刻な被害等も続発して居り憂慮に耐えないのが現状であります。明るいニュースもありました。それは皇室に41年ぶりに親王が誕生したことでありました。誠にめでたいかぎりでありました。

さて改めて母校桐生の同窓会について申し上げます。桐生同窓会は、旧制の群馬県立桐生工業学校と、現在の群馬県立桐生工業高等学校の卒業生を中心に組織され、会員相互の親睦と母校桐生の教育振興に寄与することを目的とした会でありました。歴代の役員のご協力により、いまや群馬を代表する高校同窓会として

て発展をしております。本校同窓会活動の土台は、桐生市内の行政区単位と県下全域、さらに関西、中部、静岡、埼玉、栃木に支部が結成されその支部組織と活発な支部活動であります。本校の同窓会活動は県下一と言われている所以でもあります。

活動内容につきましては、各支部単位での総会や親睦行事等、本部においては、大勢の同窓生が出席する年一回の定期総会、役員による正副会長会議、常任幹事会、支部長会議等が開催されて居ります。さらに親睦行事としてのゴルフ場を借り切ったの親善ゴルフ大会の開催があります。今年で第15回目の開催でした。そして年一回発行の会報「桐蓄」があります。

次に表題の会報「桐蓄」の全会員への配布について申し上げます。従来は各支部の支部長さんに依頼して配布をお願いして参りましたが、会員数が多く広範囲にわたる為、配布しきれないのが実情であります。役員会等で協議を重ねた結果、名簿製作会社(株)サトトに委託し配布を代行してもらうことに決めました。全同窓生に配布するに当たり相当の費用が掛かりますが、同窓会活動、並びに母校の近況をより多くの同窓生に知って頂き、会員同士の意思疎通を図ると共に、親睦を深める為の会員誌であることを願い、今回、試験的に実施することに至った次第であります。

校長挨拶

同窓会報の
発行によせて

校長 富澤弘幸



同窓会員の皆様におかれましては、ますますご清栄のことと拝察いたします。皆様には、母校のために数々のご指導、ご支援を賜り感謝をいたしております。

このたび、同窓会報「桐蓄18号」が発刊されましたことは、誠に喜ばしく、ご尽力いただきました関係各位に感謝をいたしますとともに心よりお礼を申し上げます。

さて、私も本校の校長を命ぜられてから今年で3年目を迎えることになりました。この間、伝統ある桐生工業高等学校の理念や立場を常に念頭に置きながら学校運営を進めてまいりました。又、特色ある学校づくりや、生徒達が本心に学びたいことを学べるような学校づくりを心がけてきました。最近では、このことが学校全体に浸透してきた感があります。生徒達

第であります。配布費用につきましては、同窓会皆様の任意の協力金で賄う為、どうか趣旨をご理解頂きご協力をお願いする次第であります。以上、お願いやら申し上げます。今後共、同窓会活動の一層の発展充実と母校の教育振興を図る上でご指導、ご協力を切に望むものであります。終わりに、同窓会皆様の末永いご健勝とご多幸を祈念申し上げます。会報「桐蓄」第18号発行に当たり、あいさつと致します。

も自分の目標達成に向けた学習の継続ができるようになってきました。結果として、各種資格取得の増加にもつながり、希望進路実現に結びつくなど、その成果が表れてきました。今後もこれらの指導を継続していきながら、21世紀の担い手となる生徒を育てていきたいと考えています。

最近の世の中の動きに目を向けてみますと、あらゆるところで変化が起きており、その傾向は増大しているようです。このような状況下では、工業高校が果たすべき役割も以前と比べると変わってきました。しかし、時代がどのように変わつたとしても、産業界の wings を工業が支えていることには変わりありません。これからの時代は、ものづくりのできる技術者や技能者を確保し、育成することが重要な課題になってくると思われ

ます。これまでも、工業高校では、ものづくりを意識した教育計画を立て生徒を指導してきました。しかし、時代の流れが反映してか、近頃では若者達の製造業離れが大きくな問題となつてきています。このままの状況が続いていくと、ものづくりの基盤となる技術や技能

の衰退が懸念されるだけでなく、その伝承も困難になってまいりました。これらのご問題を解決するためにも、これまで団塊の世代が支えてきた技術や技能の大半を工業高が継承していかなければなりません。工業高校では、生徒に対して技術や技能の基礎となる、ものづくりの精神や能力を育て、伸ばして行くことが大切になってきました。本校でも、ものづくりを通して人を教育するという工業教育本来の使命に立ち戻り、日々発展する技術革新の流れを取り入れながら生徒の教育にあたりたいと思っております。幸い、本校には、1万9千名を超える卒業生の皆様、各界各層に渡って大いに活躍されています。これらも、多くの先輩方が築きあげてくれた伝統を基盤として、更なる発展をも視野に入れた数々の取り組みを行って行く所存です。同窓生の皆様方には、本校に対して、これからも温かいお心でご指導いただければ幸いです。

終わりに、同窓会のみならずの発展と母校へのご支援、ご協力をお願い申し上げます。同窓会報の発行に寄せることばといたします。

本年度の開校記念講演は、本校OBで(株)ミツバに勤務され、技能五輪チーム指導している山本先生にお願いいたしました。先生は、平成14年に「現代の名工」に選ばれ、本年4月には黄綬褒章を受章されました。「技術」とは「物を扱う処理する技」、「技能」とは「物事を行う時の技術上の能力」と定義し、2つは車の両輪と相互に影響しあひながら進化していくものであることや、技能五輪への訓練の様子を通して「技能」の世界の厳しさとそれを身につけ磨き上げることの素晴らしさ、大切さを教えてくださいました。また、本校がその入り口になっていることを、パソコンを駆使していただき、わかりやすく伝えてくださいました。

開校記念講演会

○演題 「すばらしい技能の世界」
○講師 山本修平先生 (42E)

本年度の開校記念講演は、本校OBで(株)ミツバに勤務され、技能五輪チーム指導している山本先生にお願いいたしました。先生は、平成14年に「現代の名工」に選ばれ、本年4月には黄綬褒章を受章されました。「技術」とは「物を扱う処理する技」、「技能」とは「物事を行う時の技術上の能力」と定義し、2つは車の両輪と相互に影響しあひながら進化していくものであることや、技能五輪への訓練の様子を通して「技能」の世界の厳しさとそれを身につけ磨き上げることの素晴らしさ、大切さを教えてくださいました。また、本校がその入り口になっていることを、パソコンを駆使していただき、わかりやすく伝えてくださいました。



総会

● 期日 平成18年6月17日(土)
● 会場 桐生市市民文化会館
4階スカイホール

右記の日程で、120名の会員の皆様にお集まりいただき、一部総会議事、二部講演会、三部懇親会の三部構成で本年も開催いたしました。一部総会は、八木橋会長を議長に17年度事業報告、会計報告、監査報告、支部活動報告を始め、平成18年度事業計画案・予算案・役員改選案が次々と承認されました。

役員改選では、副会長藤生高正氏30D、中野幸三郎氏34M、篠原章氏41Aの3名に加えて新たに姪岡謙次氏34D・横須賀邦一氏36M・橋内俊氏38Wの3氏が選任されました。

会報「桐蓄」の全会員への郵送配布について、役員の方々のご苦労をいただき全会一致で試行することとなりました。

同窓会表彰者として、根岸武雄様20W・高橋定二郎様20W・大島善一様20W・田島信夫様25M・山本修平様42Eの5氏が銀盃が、同窓会功労者として、村田永昌副会長29W・園田徳司副会長39D、野村滋副会長42A・藤生修身前監査28Mの4氏に、感謝状が会長より手渡されました。

二部の講演に講師として出席いただいた大須賀一雄氏(30M)の水彩画家になるまでの人生(チャンスは前髪にあり)の転機を拝聴いたしました。三部では、出席者一同大いに懇親を深め、最後に校歌の大合唱ですべての行事を終了致しました。



一部・総会議事 120名の出席をいただき議事終了



二部・講演会 水彩画家として活躍されている大須賀様



同窓会表彰 瑞宝双光章受章し会長より銀盃を手渡される田島信夫氏



関西支部

昭和55年建築科卒
小山将史

人は卒業してからどれくらい経つと、母校を懐かしく思うものなのでしょう。私の場合、それは、40才を少し過ぎた頃、ちょうど桐工関西支部創立10周年の記念会を頂いたときでした。

私は、桐工卒業後、大学で建築を学び、縁あって大阪の堺で高校教員となりましたが、今春から教壇

を離れ、教育委員会で学校行政の仕事に携わっています。こうして、20年以上も教育に携わる仕事をしていたためか、思いつくことは、桐工で過ごしたあの3年間の、現在の私の礎になっていることが多いです。

昨秋からは、大学同窓会組織の近畿二府三県をまとめる大阪支部の支部長を仰せつかることになりましたが、桐工同窓会の関西支部をお手本にさせていただきながら活動しています。すばらしい先輩がたくさんおられる桐工同窓会のメンバーであることをとても幸せに思っています。

親善ゴルフ大会

赤城カントリー倶楽部

今回で15回を迎え恒例となった「親善」ゴルフ大会が8月23日(水)、赤城カントリー倶楽部にて行われました。本年も参加者は150人を越え、県内はもとより、県外支部から関西支部・中部支部・埼玉支部の参加もあり、天候にも恵まれ、大変盛り上がりしました。

惜しまれるのは、平日開催のため、参加される方々の年齢層も偏ってしまつております。そこで、来年度は8月26日(日)に同カントリー倶楽部にて開催が決まっております。働き盛りのOBの方々が、奮って参加をお願いいたします。

以下に大会結果を報告いたします。



- ◆ 個人戦 (ネット・敬称略)

優勝	中村 弘	69・6
準優勝	橋内 俊	69・6
- ◆ 団体戦 (上位5名、ネット合計)

優勝	13 支部	358・8
準優勝	笠懸支部	359・4
3位	藪塚支部	362・0
4位	10・12合同	362・2
5位	15 支部	365・6

- | | | |
|----|------|------|
| 3位 | 萩原清作 | 70・2 |
| 4位 | 吉田静治 | 70・4 |
| 5位 | 田島孝弘 | 70・4 |



個人優勝 (初) 中村 弘氏

- ◆ ベストグロス賞 (敬称略)

一般	橋内 俊	72・0
シニア	高草木栄一	73・0
- ◆ ニアピン賞

高草木栄一・鈴木 博	
金子 茂・新井 博・福島昭吉	
遠坂伸司・中里武雄・金井芳雄	
- ◆ ドラゴン賞

一般	新井理治・須藤昇治
シニア	稲垣恵造・新井理治
	高草木栄一・高草木喜一
	山崎欽一・伊藤征四郎

支部活動報告

埼玉県支部

昭和34年電気科卒
鈴木栄次

今年3月、埼玉県支部長に就任しました鈴木です。平成17年10月以降の活動は次のとおりです。

- 上州旅行とゴルフ大会 11月11日(金)

観光コース(2名)はロックハート城を見学、ゴルフコース(8名)はサンコー72CCでコンペを楽しみ、夕方宿舎わらび荘に合流し、全員で楽しい一夜を過ごしました。

11月12日(土)
直帰と観光コースに分かれ、観光組は沼田を経て、吹割りの滝、雪の金精峠、日光、足尾を越えて

埼玉へ帰宅しました。

○ 第14回支部総会
今年支部発祥の地、行田で平成18年3月12日(日)に、15名(本部3名)の出席をえて開催され、午前は忍城址と郷土博物館を見学し、午後は行田商工センターで支部総会、特別講演、懇親会。

○ 支部日帰り交流会
期日 7月8日(土)
場所 古代運の里、さきたま古墳、博物館
新しい試みでしたが15名の参加者がありました。



- 支部ゴルフ大会 4月12日(水)
- 第13回 8月3日(木)
- 本部総会(8名出席) 8月23日(水)
- 本部ゴルフ大会 8月23日(水)
- 第15回 (4名参加)
- とうらい埼玉だより 第24号、第25号、第26号発行
- 桐工フェア(有鄰館) 他見学 10月7日(土) (7名参加)
- 全国産フェア・ロボット競技 母校出場応援(さいたま市) 11月12日(日)

市内近隣支部

同窓会

の支部は行政区毎に17支部(4区と5区は合同)と近隣に笠懸・藪塚・群馬中央、足利支部(栃木県に拡大中)があります。仮称わたらせ支部(東・黒保根・大間々)と太田支部(藪塚支部は既設)の発足を準備中です。

学校だより 1

定時制の現状について

定時制教頭 高野純一

同窓生の皆様、昨年は軟式野球部の11年ぶりの全国大会出場協賛ではお世話になりました。お陰様で無事に出場を果たすことができました。今年は北関東大会決勝で敗れてしまい、2年連続の全国出場はできませんでした。



さて、定時制の現状をご報告させていただきます。在籍は4学年合わせて50名です。平成8年に機械科・電気科を統合し、工業技術科になり、平成11年度卒業生は9名でした。17年度は13名が卒業しています。卒業総数は2502名です。

工業の科目は工業技術基礎・課題研究・実習・製図・情報技術基礎・生産システム技術・機械工作・原動機となっております。卒業単位数は総合的な学習の時間・特別活動を含めて80単位です。募集定員は1学年40名ですが新入生は20名前後です。半分が学校を去っていきます。入学者の傾向は多様化し、不意入学や不登校者が増えています。市内



在住者は73%と増加、有職者はアルバイトを含め55%と減っています。このような状況ですが何とか自信を持たせ再チャレンジ



ジさせる指導を行っています。具体策は資格指導と部活動です。ジュニアマイスター資格は昨年県内定時制高校で初めて取得、今年も1

名が取得し2名になりました。今後もチャレンジする生徒が続いています。三級技能検定や第二種電気工事士、危険物取扱者などの資格指導を行っています。



全国定通制体育大会には昨年度22名、今年度15名が参加し県内では前橋清陵高に次いで多い数です。野球部は2年連続県大会優勝、陸上部は4年連続県大会優勝、バドミントン部は個人ベスト4、他バスケット部と卓球部が県大会に出場しています。部活動加入率は74%と高く、夜10時頃まで

部活動を行っています。主な学校行事は球技大会・桐工杯スポーツ大会・親善競技大会・地区体育大会・生活体験発表大会・日帰り修学旅行・予餞会などです。最後に先輩と語る会、開校記念講演会の講師を探しています。生徒の進路や人生についてご指導いただける方は是非ご協力をお願いします。

念講演会の講師を探しています。生徒の進路や人生についてご指導いただける方は是非ご協力をお願いします。



電気科

昭和31年4月1日に電気科は、1学級が新設され、生徒の増加と共に、昭和37年4月1日より2学級となり、中堅技術者の育成を目標として、教育活動を行ってきました。生徒の減少により、平成9年4月1日より1学級となりました。



出前授業風景 (18年9月11日)

歴史ある電気科の近年の様子を紹介いたします。物づくりや資格取得に力を入れる一方、特色ある学校づくり推進事業の一環として、6年前より生徒が母校の中学校へ出向き、後輩

機械科

近年の大量退職者による後継者不足や若者の製造業離れ等の問題に対し、ものづくり教育の必要性が高まっています。機械科では、群馬県第1回ものづくりコンテスト



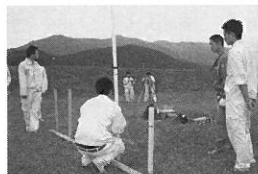
旋盤部門への参加をきっかけに、国家検定(技能検定3級旋盤作業・機械検査)資格取得に向けて、生徒・教員が一丸となって取り組み、群馬県産

建設科

建築科・土木科が合体しました。桐生の建設科は、S38年に建設科第1期生が誕生し、S44年(7期生)まで開設された後、S45年に建築科・土木科に分割され今年で36期生の卒業を目前にしております。平成16年に両科が合体し当初の建設科にもどりました。



この背景には、生徒の人口減が大きく作用し、本校でもさらに1学級減がせまられ、建設業界の状況ともあいまって建設コース、土木コースの生徒が混在する形になりました。コース分けは、2年次より行われ、1年次では建築・土木両コースのガイダンス科目(工業技術基礎・建築構造・測量)を必修させて、しっかりと建築・土木の違いと進路状況を考え適性をみながらコース分けを行っています。今年で、2年目を迎える訳ですが、建築・土木のコース分けは、ほぼ同数で推移しています。関係業界のご要望にもなんとか答えられる状態を維持する事ができ、ホッとしている状況です。



社会情勢によってどう変化するか、わかりませんが建設科、建築科、土木科の多くの卒業生の思いを在校生に伝えながら新しい道を開いてゆきます。

学校だより II



長崎屋桐生店にて

繊維工学科と色染化学科を一つにして染織デザイン科になったのは平成3年からである。繊維工学科は系から織り、色染化学科は染色全般と分かれていたが一緒にになり、それにデザインという内容も加わり限られた時間の中で実施している。であるから学習内容も必要最低限の力キキラムを実施している。また、生徒も昔は男子の中に女子がいたが、現在はほとんどが女子という大きな様変わりである。

長引く繊維不況で、繊維関連業者の倒産や高齢化による廃業で明るい兆しが見えない中、当科では地域との交流で桐生八木節まつりにおいて桐生新町染め流しやジャンボパレードに参加したり、地域の方々に桐生染織デザイン科をPRするため染織デザイン科卒業制作展を毎年1月中旬に長崎屋さんを会場

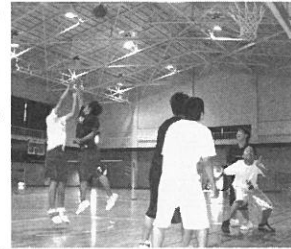


に開催している。またいろいろな地域のイベントにも積極的に参加し一般の人に当科の学習内容を宣伝している。

部活紹介

バスケット部

顧問 小野智澄



かつて多くの先輩方の努力と活躍により、群馬県を制し全国大会の常連校であった桐工バスケットボール部。その先輩方に残していただいた輝かしい競技成績に追いつき越えるため、日々充実した活気ある練習を行っています。現在の部員は45名、大きな部となりました。全員バスケットボールが大好きで、自己、そしてチームが強くなるために惜しまず努力しています。現在の成績は県ベスト8。この先、ベスト8からベスト4の間

つた桐工バスケットボール部。その先輩方に残していただいた輝かしい競技成績に追いつき越えるため、日々充実した活気ある練習を行っています。現在の部員は45名、大きな部となりました。全員バスケットボールが大好きで、自己、そしてチームが強くなるために惜しまず努力しています。現在の成績は県ベスト8。この先、ベスト8からベスト4の間

陸上部

顧問 大山能史

陸上部は今年部員総数26名(3年8名、2年7名、1年11名)で活動しています。

全国14回・関東42回出場場の伝統ある駅伝は、本校OBの大学・箱根・実業団でも活躍した永井聡氏をコーチに迎え「都大路」を目指し活動しています。高校総体では八百m、千五百m、五千mで関東大会出場を果たすことができました。春・GW・夏には合宿を積み重ね走力や技術の向上を押し進め

にある壁を乗り越え、先輩方に古豪桐工バスケット部の復活、そして優勝の報告ができるよう、選手共々努力を重ねて行きたいと思えます。

硬式野球部

監督 城田純一



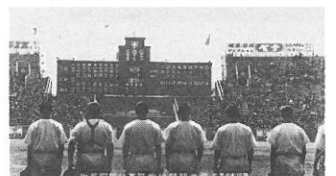
誠を尽くして闘つ事を部のモットーとして日々、部員の人格形成に取り組んでいます。大会では今一步の所で惜敗していますが野球の技術だけでなく規律意識のしっかりした部員、地域から愛される部員を目指し努力しています。今後練習の充実と県外遠征を積極的に行い桐工野球部の伝統を胸に古豪復活に尽力したいと思います。今後とも応援よろしくお願います。

ています。全国規模の駅伝大会にも出場し底力を付けて、11月3日の県高校駅伝では4位に入賞し、11月25日の千葉県で開催される、関東高校駅伝大会に出場する事になりました。



事務局だより

母校は創立73年、第1回卒業以来67年の月日が経ち第1回生も85歳となりました。昭和10年代の県立桐生工業学校卒業生は県工卒の自負を持ち、20年代・30年代の卒業生は、学校でスポーツ全盛時代を過ごし、日本の産業、特に工業発展の担い手として仕事に邁進してこられました。去る6月に昭和21年の甲子園初出場者5名をお招きし、「甲子園の思い出を語る集い」を母校で開催し、当時の思い出を語り合っていました。21年と23年出場者の半数が既に逝去されており残念でなりません。このたびの集いで、貴重な資料が確認できました。母校創立時からの新聞スクラップ帳、県大会・北関東大会の優勝杯・楯、21年と23年の出場記念メダル・バックル、23年と27年の選抜旗・入場行進の写真、35年大会のアルバム写真、各大会の記録。特に27年甲子園唯一の勝利、選手がスコアボードへ向かっている写真が印象的です。(上の写真は23年と27年の選抜旗) 人、物、記録... 貴重なものばかりです。学校に保管してある物は極わずかです。個人所有の物が埋もれてゆくことを危惧して止みません。※住所不明者が約三千五百名います。情報を事務局までお寄せ下さい。



写真提供：28D卒 高野价司氏

自動車部

平成9年 自動車愛好会として発足。燃費競技全国大会に初出場完走。そして、9年目の春... 2006ワールドエコノムリーグランプリ・燃料電池部門にて総合6位、高等学校クラス優勝を収めることが出来た。

現在15名の部員が心・技・体を鍛え、少ないエネルギーで1メートルでも多く走行できる車両を



編集後記

本年度も、桐生18号を、ここに発行する事ができました。会長挨拶にありますが、全会員に郵送にて配布する事になり編集部も、より良い会報となる様校正を重ねてまいりました。桐生18号が、同窓生の交流に役立ち、又、現在の桐生を理解していただきたいと思います。発行にあたり、関係各位の御協力に感謝申し上げます。広報担当(副会長) 38W 橋内俊・41A 篠原章